

イチオシイベント！ 全日本リレー / インカレシヨート

木村佳司

都道府県対抗で日本一を決める全日本リレー。そしてシヨートディスタンス競技で学生日本一を決めるインカレシヨート。日本の頂点を決める2つの大会が菅平で行われる。

これを支える地図作成の舞台裏を紹介しよう。

地図調査にGPSを投入！

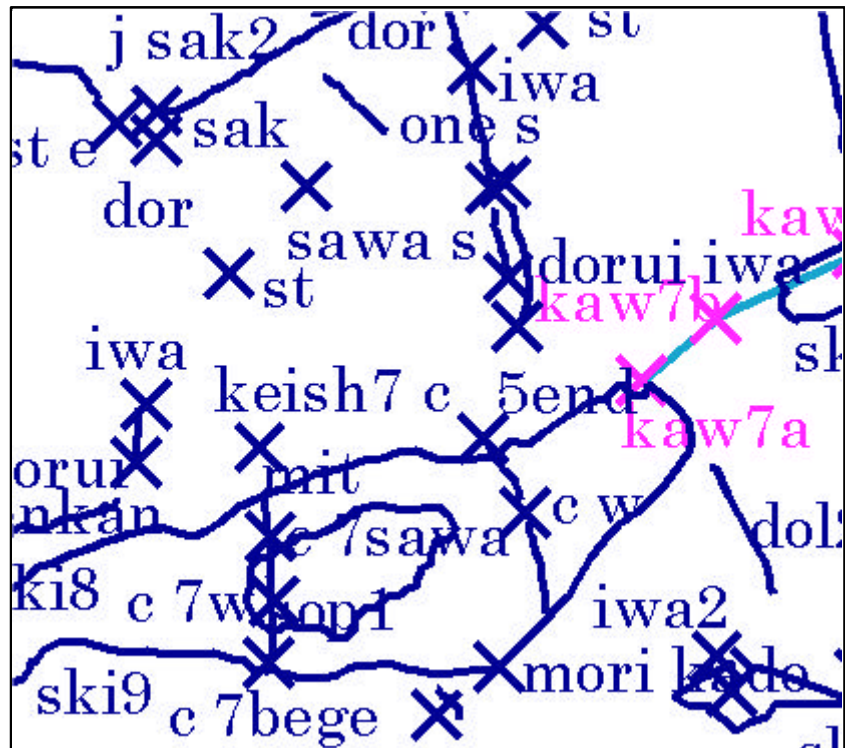
4月はまだまだ雪景色に包まれていた菅平高原のテレインも5月連休までには雪も溶け、本格的に地図調査が開始された。

今回の地図調査における最大の特徴は、GPS投入である。そう、カーナビなどに利用されているアレである。

菅平高原は今までに何度もオリエンテリング用地図が作成されてきた。しかし、今までのどの地図も微妙に歪んでいる。いや、うまくごまかしているというべきだろうか。

街の中心から遠く離れたこの地で正確な地図を必要とする人はそういない。こうしたせいか、我々大会運営者が手に入れることができる行政図の精度は、お世辞にも良いとは言えないものだった。今まではこうした行政図を基礎図として地図調査を行なうしか無かったため、おのずと調査結果にも歪みが発生していたのだった。

しかし、今回は事情が違う。GPS装置を導入することによって、どこでも正確な位置情報を手にすることができる。ここ菅平高原特に天空に開けており、GPS衛星から飛んでくる電波を遮るものが何も無い。このため非常に良い精度での測量が可能となったのだ。



GPS機器に記録された位置データを出力した例
調査中に拾った位置座標や線状の座標などが記録されている。
この位置情報はGPS機器だが、これを地図上にどう表現するかは調査者次第

今回使用したのは、GPS測量として世界に名を馳せる、トリンプル社のGPS受信機。GPS測量班はこれを背負ってテレインの特徴物まで行き、その位置座標とコメントを入力してゆく。ここで必要なのは目標物の正しい見極めかたである。地図調査の経験が豊富であれば、この時点での特徴物の取捨選択を行ってしまうのである。



草原の中にポツリとある岩。
この位置もGPSならピタリと決まる。

今一度問われる地図の表現力

さて、GPSによって地図の上の位置が多数確定した。あとは原図にこの位置情報を重ね合わせて、調査班が図化してゆく。以下に初めてGPS原図を使用した調査班の感想を掲載する。

「今回の調査はGPSのおかげで、3倍速で調査が進みました。本来、何点もから三角測量と歩測をして、ようやく確定していた岩などの特徴物が最初から場所が決まっている！」

「今までのように周囲を何往復もしない分、時間はかからないし、体力的にもロスが少ないし、恐ろしいくらいの効率化調査でした。」

「たとえば、牧場の中にある1個の岩を地図に載せるためには、柵や道の曲がりなど、既に固めた定点との間でコンパスを用いて角度を測り、フィールドコピー上に薄く線を引き、それらの線が重なるポイントを

歩測で確認しながら定めることによって確定しなければなりませんでした。」

「しかし、GPS の登場によってそれら 1 サイクルに 5-20 分以上はかかった作業がナシ。まさに驚異的というしかありません。スキームのラインもしっかり押さえてあるので境界がゆがむことも考えられないです。まさにエクスプレス調査です。あまりに速く調査が進むものでクリーンコピーを描くのが追いつかないくらいでした。」

「歩測やベアリングなどの基礎作業が抜けたことで、調査者が本来行うべき、地形から地図への表現力がより強く問われる調査でもありました。如何に地形を表現するか、植生を表現するか、表現力が真正面から問われる調査です。機械化が進んでも最後にのこるには人間の表現力のようなのです。」

GPS だ、コンピュータ作図だ、というハイテクを駆使した地図調査だが、それを使うこと自体は目的ではない。今まで膨大な人的資源を投入しても達成できなかった地図の精度品質がこうしたハイテク機器のおかげでやっと手に入れることができるようになった。今まで位置精度の確保に費やされていた工数は地図表現に費やされるようになった。

こうしてできた地図を使うことによって、競技の公平性を損なうことなく、様々なコースバリエーションを描くことが可能になるのである。



テレインから見える北アルプスの夕焼け 幻想的ですからある。

全日本リレー 11月3日(日) インカレショート 11月4日(振)

この地図を使用して、日本の代表的イベントである全日本リレーとインカレショート大会が開催される。どちらもステータスが高い大会と言われているが、それに見合った競技品質を確保するのにも相当コストがかかるイベントでもある。実際、採算が厳しいという点ではどちらも同じ。

そこで、今回、全日本リレー大会とインカレショート大会を 2 日連続で開催する。主催団体は異なるものの、受入体制の長野県 OL 協会側、菅平高原側の体制は一本化し、運営経費を削減することを目的にしている。もちろん参加される皆さんの経費を節減することも目指している。

このような選手権を同じ場所で 2 日連続開催して、競技の公正さは保てるのか？ という疑問が湧いて来るだろう。

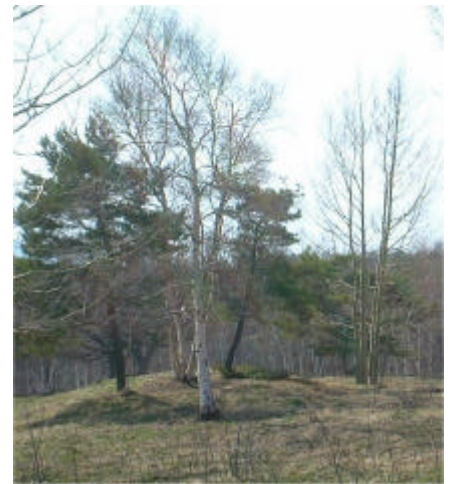
これについては競技地域をうまく分離することによって実質的な解決を図るつもりでいる。限られた資金の中でできる限りの事はするつもりだ。

競技の成功だけでなく、経済的な成功が、今後のオリエンテーリングイベントの継続的発展のためには不可欠なのだ。もしも選手権大会が資金的に立ち行かなくなれば、その選手権大会は存亡の危機に立たされることになる。

どんなイベントもそうなのだが、そのイベントを継続的に発展させてゆくために、経済的成功は必要条件なのである。

準備は着々と進んでいる。日本一のリレーを見せるのは、どの都道府県なのか？ はたまた、日本の学生の中で、最高速のオリエンテーリングレースを制するのは誰なのか？

選手たちがこのフィールドを駆け抜ける姿を思い浮かべ、調査や事前作業を続けている。



菅平高原の春

テレインにはこのような微地形が多く存在する。これも GPS 調査の対象となる。

事前イベントも充実！

これら 11 月のレースに先立って、事前イベントが予定されている。一足先に菅平高原でのオリエンテーリングを楽しむことができる。

特に 9 月 15 日(日)は日本初のロゲイニング大会が開催される。広大な菅平高原の西全域を使用して 180 分のスコアオリエンテーリングが行われる予定である。このロゲイニング大会はかなり広い範囲を使用するのだが、それでもちゃんと 11 月のレース範囲に入らない設定になっている。これだけ広いエリアをロゲイニング大会用に確保できるのも菅平高原の広さゆえである。

さらに 9 月 16 日(振)からは全日本リレー/インカレショートのトレーニング地図が公開され、この地図を使用したミニレースイベントが開催される。

この秋は菅平高原から目が離せないコトになりそうだ。

インカレショート 2002
<http://www.orienteering.com/uofj/ics2002/index.html>

日本ロゲインチャレンジ
<http://orienteering.hoops.jp/rogaine/>